

〔夫木和歌抄二十七〕三島社奉納歌神樂

權僧正公朝

あしはらのかり田のおもにはひちりていなつきがにもよをわたるらん

石蟹
〔倭名類聚抄十九〕石蟹 兼名苑注云石蟹和名以之加仁 生海際石下故以名之

〔類聚名義抄十〕石蟹 イシカニ

小蟹
〔新撰字鏡〕虫 蟹方主及上小伊牟支

〔類聚名義抄十〕蟹一本作蟹 蟹濱小ガニ

獨螯蟹
〔和漢三才圖會四十六〕獨螯蟹てはうかた 一手者俗呼名手亡此蟹一螯故名氏保宇蟹

按似小蟹而色白一螯者紀州和歌浦多有之見人則走入穴本草獨螯者有毒不可食者是也

甲蟹
〔物類稱呼二〕物用蟹かぶとかに 筑紫にてうんきうと云薩摩にてばくちかといふ安房にて

いそほうづき共云九州の海に有其甲かぶとに似たり沙干の頃多し又大沙にたゞよひて磯に

寄を兒童とらへて繩をつけたはぶれ翫とす又海ほうづきはうんきうの卵也と云

〔本朝食鑑十〕蟹

釋名甲蟹甲俗讀作兜此蟹殼如兜故名

集解蟹狀如尖頭之兜廣尺餘其甲瑩滑青黑色其堅如鐵鍬背骨眼眼在背上口在腹下頭如蹉頭十

二足似蟹在腹兩旁長五六尺尾長一二尺有三稜如櫻莖背上有骨如角高七八寸如石珊瑚狀每過

海相負示背乘風而遊其血碧色腹有子如黍米其行也雌常負雄失其雌則雄不動雄小雌大也本邦

不食之漁人亦不采之呼曰宇牟幾宇或稱武文蟹元弘之亂尊良親王家僕秦武文死于兵庫湊其靈

化作甲蟹故土人到今憐戚不采之俚俗傳誕甚怯若斯耳

〔大和本草介十四〕蟹魚 海邊ニアリ西州ニテウンキウト云又カブトガニト云其形カブトニ似タ

リ○中 足ハ腹下ノ左右ニ各五アリ合十アリ足ノサキニ皆ハサミアリ蟹ノ足ニ似タリ腹ニ廣